

三〇歳—三五歳	五一名中	有配偶	四六名	一八・二四%
三五歳—四〇歳	四二名中	有配偶	三七名	一八・九〇%
四〇歳—四五歳	四八名中	有配偶	四五名	一七・三〇%
		無配偶	二名	四・一七%

女

一五歳—二〇歳	七六名中	有配偶	六九名	九〇・七九%
二〇歳—二五歳	六三名中	有配偶	四八名	七六・一九%
二五歳—三〇歳	四五名中	有配偶	四三名	九五・五六%
三〇歳—三五歳	五〇名中	有配偶	四七名	九四・四〇%
三五歳—四〇歳	四七名中	有配偶	四三名	九一・四九%
四〇歳—四五歳	五三名中	有配偶	四八名	九〇・五七%
		無配偶	五名	九・四三%

即チ有配偶者中最低年齢ハ一五歳—二〇歳ノ者七名(女七名男ナシ)ニシテ全年齡階級女ノ九・二一%ニ過ギス

二〇歳—二五歳ニアリテハ有配偶者男四一・九〇%女七六・一九%即チ男ハ四割女ハ七割ヲ占ム二五歳—三〇歳ニアリテハ男七五・四四%女九五・五六%ニシテ女ニテハ全五歳階級中有配偶者ノ最モ高率ナリ無配偶者ハ男二割以上アリ三〇歳以上ニアリテハ無配偶者甚ダ少ナシ

四五歳以上ニ於テ無配偶者増加スルハ死別其他ノ特別ノ事情加ハリ來リシ結果ト認メラル
本村ハ農村トシテ早婚ニモ晩婚ニモアラス普通状態ナリ

四 婚姻及離婚

本村十ヶ年間(自大正四年至大正十三年)婚姻數ハ三〇九組離婚數三一組ニシテ各年度別婚姻、離婚種類ニヨリ分ツニ次ノ如シ

年次	婚姻種別		計
	普通婚姻	入夫	
大正四年	二三	二	二八
大正五年	三四	一	四一
大正六年	二四	一	二五
大正七年	二三	二	二七
大正八年	二五	一	二九
大正九年	二二	四	三〇
大正十年	二一	三	二七
大正十一年	三五	一	三八
大正十二年	三九	一	四三
大正十三年	一九	一	二一
計	二六五	一四	三〇九

年次	離婚種別		計
	妻ガ夫ノ家ヲ去リタルモノ	夫ガ妻ノ家ヲ去リタルモノ	
大正四年	二	一	三
大正五年	一	一	二
大正六年	一	一	二
大正七年	一	一	二
大正八年	一	一	二
大正九年	一	一	二
大正十年	一	一	二
大正十一年	一	一	二
大正十二年	一	一	二
大正十三年	一	一	二
計	一四	一	一五

大正四年	4	1	4
大正五年	4	1	4
大正六年	2	1	2
大正七年	2	1	2
大正八年	1	1	1
大正九年	3	1	3
大正十年	1	1	1
大正十一年	4	1	4
大正十二年	4	1	4
大正十三年	4	1	4
計	25	6	31

即チ一年平均婚姻數三〇・九組ニシテ本村前記常住人口千ニ對シ一七・二組ニシテ千葉縣ノ十ヶ年
(自大正四年至大正十三年)平均八・七六組全國十ヶ年(自大正十三年至大正十四年)平均八・六八組ニ比シ本村婚姻率高シ

次ニ離婚數ハ十ヶ年間三一組一年平均三・一組ニシテ人口千ニ對シ一・七二組ナリコレヲ千葉縣前記
 十ヶ年平均ノ〇・九三組全國前記十ヶ年平均ノ〇・九八組ニ比スルニ何レヨリモ高率ナリ即チ本村ハ婚
 姻多ク離婚モ亦多キ村ナリ

五 最近十ヶ年間常住人口竝人口増減關係 (第三表參照)

本村最近十ヶ年(自大正四年至大正十三年)ニ於ケル本籍人口、常住人口ヲ見ルニ左ノ如シ
 體性ニ依リ分チタル本籍及常住人口

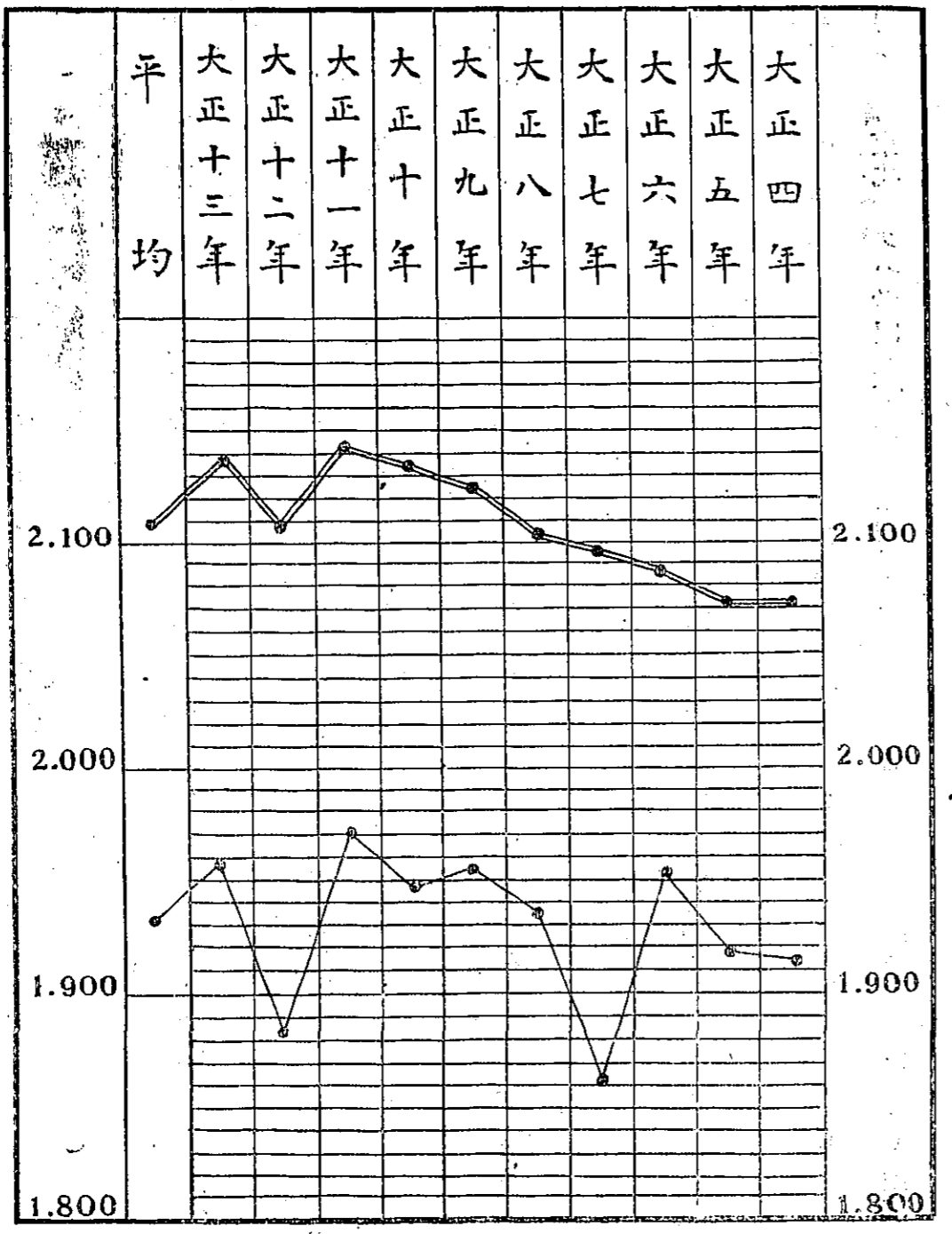
年次	本籍人口		計
	男	女	
大正四年	1,062	1,022	2,074
大正五年	1,062	1,022	2,074
大正六年	1,068	1,019	2,087
大正七年	1,093	1,002	2,095
大正八年	1,089	1,022	2,111
大正九年	1,044	1,022	2,066
大正十年	1,077	1,028	2,105
大正十一年	1,111	1,033	2,144
大正十二年	1,087	1,022	2,109
大正十三年	1,055	1,034	2,139
平均	1,089	1,020	2,109

年次	常住人口		計
	男	女	
大正四年	983	934	1,917
大正五年	979	941	1,920
大正六年	994	961	1,955
大正七年	955	906	1,861
大正八年	989	947	1,936
大正九年	1,004	951	1,955
大正十年	995	951	1,946
大正十一年	1,008	962	1,970

大正十二年	九九四	八八八	一、八八二
大正十三年	九九九	九五八	一、九五七
平均	九九〇	九四〇	一九三〇

本籍人口ハ途中多少ノ増減アレドモ一般ニ増加ノ傾向ヲ有ス
 常住人口ニ於テハ大正四年ヨリ大正六年迄ハ増加シ大正七年ニ減少シ大正八年ヨリ漸次増加シ大正十二年ニ減少シタルモ大正十三年ニ増加ス
 次ニ出入寄留者ヲ見ルニ入寄留者ニ比シ出寄留者多ク年ニヨリ多少ノ増減ハアレドモ一般ニ出寄留者ハ増加ノ傾向ヲ示ス

本籍人口及常住人口増減表 (自大正四年十ヶ年間) 各年度實數ヲ示ス



第三章 生産、死産及死亡

本村生産、死産及死亡ノ調査ハ専ラ鎌足村役場書類ニ依リ調査班員ノ調査セルモノニシテ本村保健衛生上不必要ト認メタルモノ例ヘバ出稼人、兵役中其他本村外ニアルモノノ死亡、死産及生産等ハ之ヲ除キタリ

而シテ之等死産、死亡等ノ人口千ニ對スル比例算出ニ用ヒシ人口ハ大正四年ヨリ大正十三年ニ至ル十ケ年間平均常住人口一、九三〇名ヲ以テセリ(第三表参照)

一 生産 (第五表第六表参照)

大正四年ヨリ大正十三年ニ至ル十ケ年間ニ本村ニテ生産セルモノ男二六七名女二六四名計五三一名ニシテ前記十ケ年平均常住人口一、九三〇名ニ對スル人口千ニ付一ケ年平均生産比例ヲ求ムルニ二七・五二ナリ

コレヲ本縣ノ十ケ年(自大正四年至大正十三年)平均生産率三四・二八、全國十ケ年(自大正四年至大正十三年)平均生産率三二・六〇ニ比スルニ何レヨリモ低シ

更ニ之レヲ内務省調査九ケ農村(大正七年以降内務省ニテ全國各方面ニ互リ保健調査ヲ施行セシ九ケ農村ニシテ東北ニテハ秋田縣富根村、關東ニテハ群馬縣郷谷村、北陸ニテハ福井縣栗田部村東海道

ニテハ静岡縣宇刈村、近畿ニテハ奈良縣筒井村、山陰ニテハ島根縣遙堪村、四國ニテハ愛媛縣清水村九州ニテハ佐賀縣佐留志村及山口縣平川村)平均三四・四五前調査地山武郡山邊村三一・八九ニ比スルニ何レヨリモ少ナク甚ダ不良ナリ

前記十ケ年間生産五三一名中公生五〇六名(男二五七名女二四九名)私生二〇名(男六名女一四名)不詳五名(男四名女一名)ニシテ生産百ニ對スル公私生ノ比ヲ見ルニ一ケ年平均公生九六・二私生三・八ニシテ千葉縣ノ十ケ年(自大正四年至大正十三年)平均公生九五・七三私生四・二七全國ノ十ケ年(自大正四年至大正十三年)平均公生九一・六八私生八・三二ニ比シ私生兒少ナク村民ノ風紀一般ニ佳良ナリト云フヲ得ベシ

本村十ケ年間生産狀況ヲ各年別ニ見ルニ

年 度	實 數		計	人口千ニ對スル比
	男	女		
大正四年	三九	二八	六七	三四・九五
大正五年	三二	二六	四八	二五・〇〇
大正六年	二九	三九	五八	二九・六七
大正七年	二五	二四	四九	二六・三三
大正八年	三三	二八	五一	二六・三四
大正九年	二八	三〇	五八	二九・六七
大正十年	二七	二五	五二	二六・七二
大正十一年	一六	二四	四〇	三〇・三〇
大正十二年	三四	二九	六三	三三・四八

大正十三年

二四

二二

四五

二二・九九

二六

即チ最モ生産率ノ高キハ大正四年ニシテ次ハ大正十二年大正六年大正九年ノ順ナリ低キハ大正十一年大正十三年大正五年ニシテ漸次増加或ハ低減等ノ特徴ナク不規則ノ狀ヲ呈ス

更ニ生産ヲ男女別ニ分チ十ヶ年間平均數ヲ見ルニ男二七名女二六名ニシテ人口千ニ對シ男一四・〇

〇女一三・四七ニシテ男ノ方多シ只大正四年大正六年大正九年大正十二年ニ於テ女ノ方平均ヨリ多シ

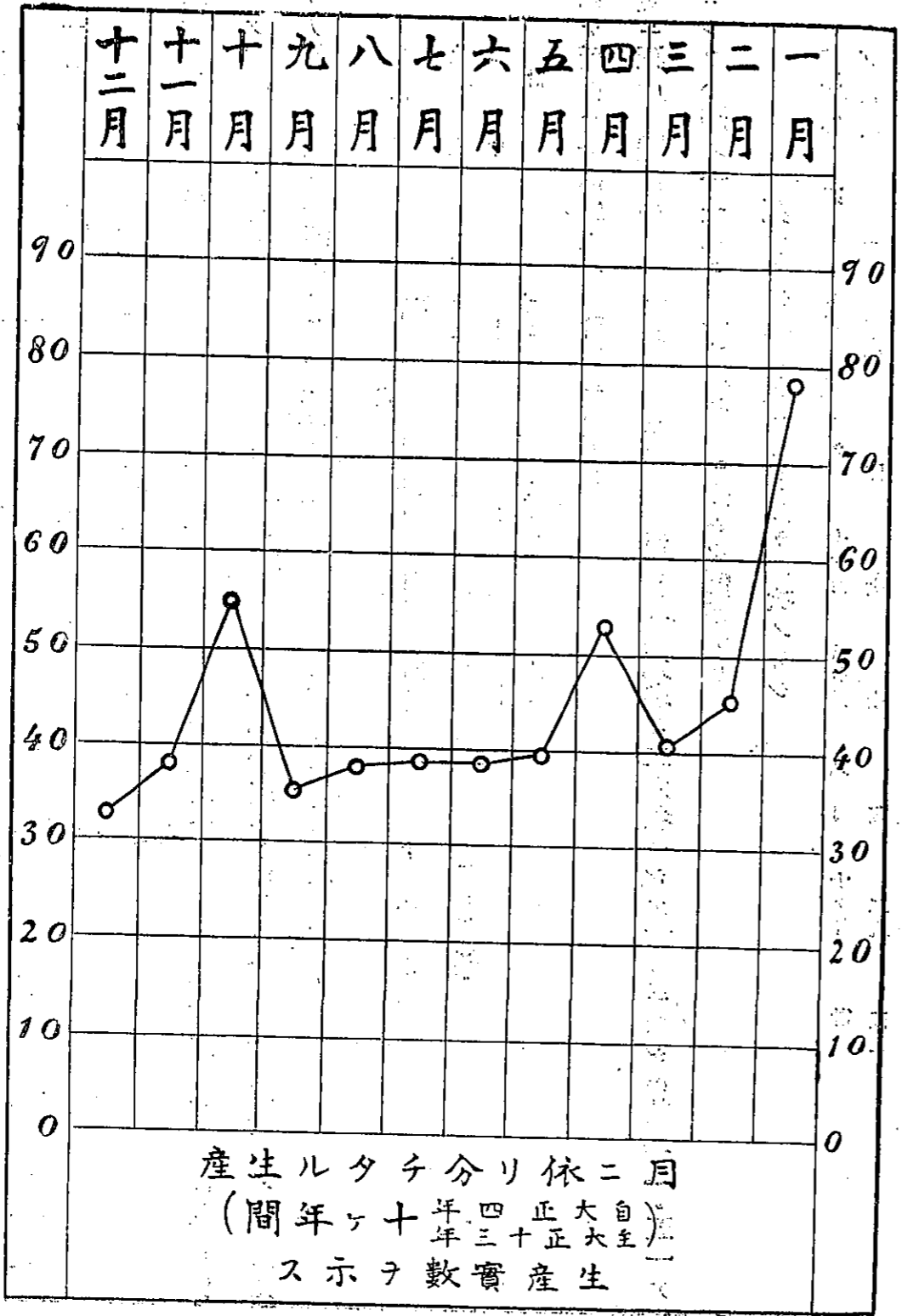
生産女一〇〇ニツキ男一〇三・八四ニシテ本縣ノ十ヶ年(自大正四年至大正十三年)平均一〇四・七七全國ノ十ヶ年

(自大正四年至大正十三年)平均一〇四・三五ニ比スルニ本村ハ本縣及全國何レヨリモ男ノ出生少ナシ

次ニ生産ヲ出生ノ月ニヨリ分ツニ左ノ如シ(第七表参照)

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
生産數	七八	四六	四一	五三	四〇	三八	三八	三七	三五	五四	三八	三三	五三二

即チ出生一月ニ最モ多ク十月四月二月三月五月コレニ次グ最モ少ナキハ九月八月ナリ陽春ノ候受胎セルモノ最モ多シ



現住十五歳未満ノ者六一六名ニツキ早産、熟産ノ狀況ヲ調査セルニ早産二名ニシテ男一名女一名ナリ内一名ハ七ヶ月一名ハ九ヶ月ニテ出生セルモノナリ

二 死 産 (第八表第九表参照)

大正四年ヨリ大正十三年ニ至ル十ケ年間本村死産總數ハ五五名一ケ年平均五・五名ニシテ人口千ニ對シ一ケ年平均二・八五名本縣ノ十ケ年(自大正十三年)平均三・一〇名ヨリ稍低ク前調査地山邊村ノ六・四九名ヨリ著シク低シ全國ノ十ケ年(自大正十三年)平均二・四二名ニ比スレバ高率ナリ

身分別	實數		百分率
	男	女	
公 生	二九	二六	五五
私 生	一	一	一〇〇・〇〇
計	二九	二六	五五

即チ死産ハ全部公生ニテ私生ニハナシ

更ニ死産ノ體性別ヲ觀察スルニ十ケ年ヲ通シ男二九名女二六名ニシテ女百ニ對シ男一一・五一ナリコレヲ全國ノ一一・六七ニ比スルニ少シク低率ナリ

死産ヲ懷孕月數ニヨリ分テバ次ノ如シ

懷孕月數	死産數
四ヶ月	一
五ヶ月	四
六ヶ月	四
七ヶ月	七
八ヶ月	七
九ヶ月	四
十ヶ月	二八
計	五五

即チ十ヶ月最多ク全數ノ五割七ヶ月、八ヶ月各一割三分ヲ占メ次ハ五ヶ月、六ヶ月、九ヶ月、四ヶ月ノ順ニシテ四ヶ月ハ最少シ

更ニ死産セル月ヲ見ルニ次ノ如シ

死産月	死産數	
	男	女
一月	六	二
二月	三	一
三月	一	一
四月	四	一
五月	七	一
六月	一	一
七月	二	一
八月	五	一
九月	四	一
十月	六	一
十一月	三	一
十二月	七	一
計	四九	六

一月、十二月最高トシテ五月、十月之レニ次キ八月、十一月ノ順ニシテ最少チキハ三月、六月ノ一名ナリ

三 死 亡 (第十表参照)

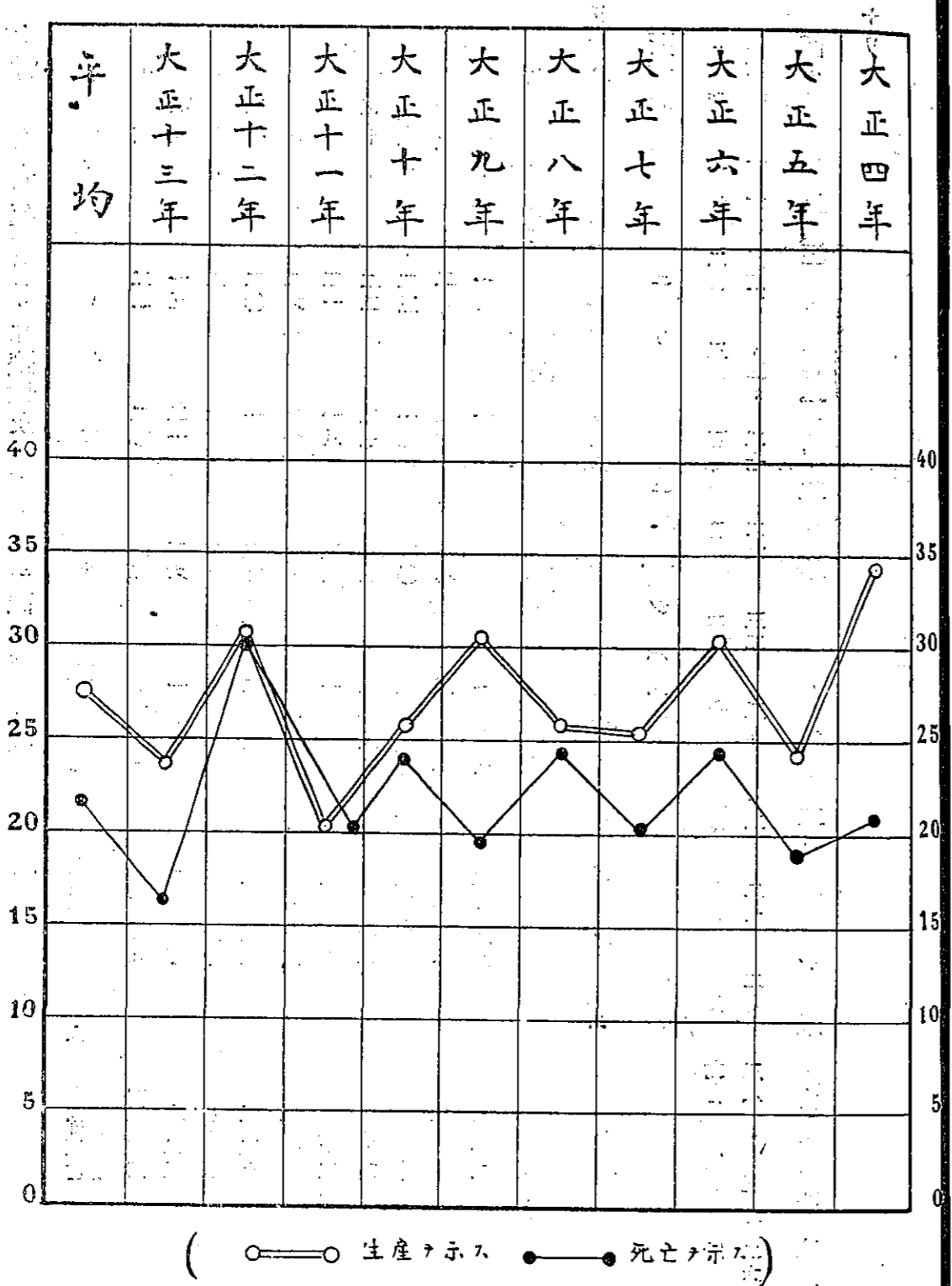
大正四年ヨリ大正十三年ニ至ル十ケ年間ニ於ケル本村現任人ノ死亡者總數ハ四二六名内男二一七名女二〇九名ニシテ一ケ年四二・六名ニ當ル人口千ニ對スル死亡率ハ一ケ年平均二二・〇七ニシテ之レヲ本縣十ケ年(自大正十三年)平均二五・二一及全國十ケ年(自大正十三年)平均二二・七〇ニ比スレバ本縣及全國ノ何レヨリモ低ク良好ナルモ内務省調査九ケ農村死亡平均二一・三二前調査地山武郡山邊村二一・〇八ヨリハ高シ

今本村生産、死亡等ノ人口千ニ對スル數ヲ本縣(自大正四年至大正十三年)十ヶ年平均全國(自大正四年至大正十三年)内務省調査九ヶ農村平均及前調査地山邊村ノモノト比較對照スレバ左ノ如シ

	生 産	死 亡	死亡ニ對スル生産ノ増
本 村	二七・五一	二二・〇七	五・四四
本 縣	三四・二八	二五・二一	九・九〇
全 國	三三・六〇	二二・七〇	一〇・九〇
九ヶ農村	三四・四五	二二・二三	一二・二三
前調査地	三一・八九	二一・〇八	一〇・八一
山武郡山邊村			

死亡ニ對スル生産ノ増加ハ前記十ヶ年平均人口千ニ對シ本村ハ五・四四コレヲ本縣ノ九・〇七全國ノ一〇・九〇、九ヶ農村一三・二三前調査地山武郡山邊村一〇・八一ヨリ著シク低ク最モ成績不良ナリ

常住人口千ニ對スル生産、死亡對照表 (自大正四年至大正十三年十ヶ年間)



本村十ヶ年間死亡者ヲ其體性及各年度別ニ記セバ左ノ如シ

年次	男	女	計	人口千ニ付		人口千ニ付死亡ニ對スル生産増
				死亡	生	
大正四年	二二	二〇	四二	二二・九一	三四・九五	一三・〇四
大正五年	一五	二一	三六	一八・七五	二五・〇〇	六・二五
大正六年	二五	二二	四七	二四・〇四	二九・六七	五・六三
大正七年	二〇	一九	三九	二〇・九六	二六・三三	五・三七
大正八年	二六	二一	四七	二四・二八	二六・三四	二・〇六
大正九年	二一	一八	三九	一九・九四	二九・六七	九・七三
大正十年	二二	二三	四五	二三・二八	二六・七二	三・四四
大正十一年	二三	一七	四〇	二〇・三〇	二〇・三〇	—
大正十二年	二四	三四	五八	三〇・八二	三三・四八	二・六六
大正十三年	一九	一四	三三	一六・八七	二二・九九	六・一二

大正十二年ノ死亡率最高トシテ次ハ大正八年、大正六年、大正十年ノ順ニシテ他ノ年ハ平均率ヨリ低ク最モ低キハ大正十三年ナリ累年死亡率起伏常ナク不規則ノ状態ヲ呈ス

死亡者ヲ死亡ノ月ニヨリ分チ見ルニ左ノ如シ (第十表参照)

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
死亡數	四五	四四	三三	二七	二九	三二	三五	五二	二七	二九	三八	三五	四二六

即チ八月最モ死亡多ク次ハ一月、二月、十一月、七月、十二月ノ順ニシテ最モ少ナキハ四月、九月ナリ

更ニ十ヶ年平均一日死亡千ニ付各月平均一日ノ死亡ノ比ヲ計算シ觀察スルニ左ノ如クニシテ前述ト一致セリ (第十一表参照)

死亡ノ月	本村		本縣		全國(大正十二年)	
	一年平均一日ノ死千ニ付	各月平均一日ノ死	同	上	同	上
一月	—	一二四〇・八	—	九〇〇・八	—	九七〇・二
二月	—	一三四三・三	—	一〇七三・三	—	九九六・三
三月	—	九三七・五	—	九三四・三	—	九六八・八
四月	—	七六九・三	—	八〇三・三	—	八九〇・九
五月	—	七九九・七	—	七〇五・五	—	八二九・一
六月	—	九一一・八	—	八〇九・五	—	八八八・〇
七月	—	九六五・一	—	一〇三五・六	—	一〇〇四・八
八月	—	一四三三・九	—	一六五・九	—	一一一四・〇
九月	—	七六九・三	—	一六二七・四	—	一五四五・〇
十月	—	七九九・七	—	一一一五・四	—	一〇三〇・九
十一月	—	一〇八二・七	—	九四九・二	—	八七八・〇
十二月	—	九六五・一	—	八九三・一	—	八九四・三

即チ酷暑ノ候ト嚴寒ノ候ニ最高ヲ示シソレニ近キ月コレニ次グ本縣及全國ト比較スルニ九月最高ヲ示スモ大体本村ノ其レト同一ナリ

四 死亡原因 (第十二表参照)

本村前記十ヶ年死亡者四二六名ニシテコレヲ死因分類(大分類)ニ則リ分ツニ左ノ如シ

死因分類(大分類)	本村死亡實數		計	全死亡者ニ對スル率		本村		全國	
	男	女		千分率	千分率	同上千分率	同上千分率	同上千分率	同上千分率
一、傳染性病及全身病	三八	四〇	七八	一八三・〇九	一八八・四一	二二〇・九六	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
二、神經系ノ疾患	四三	三一	七四	一七三・七四	一七八・五五	一四六・三二	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
三、血行器ノ疾患	六	七	一三	三〇・五二	三六・三六	三三・五八	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
四、呼吸器ノ疾患	四〇	二七	六七	一五七・二七	一五六・〇八	一六二・八六	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
五、消化器ノ疾患	四二	五三	九五	二二二・九九	一五五・二六	一七九・五八	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
六、泌尿及生殖器疾患	六	九	一五	三五・二二	四四・一八	四五・五四	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
七、妊娠及産ニ因スル疾患	〇	一	一	二・三四	四・五三	五・二一	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
八、皮膚及運動器疾患	二	二	四	九・三九	六・一三	六・九三	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
九、畸形及幼年ニ固有スル疾患	八	一七	二五	五八・六八	七七・〇七	五八・七七	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
一〇、老年(老衰)	四	九	一三	三〇・五二	七四・四一	五四・七〇	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
一一、自殺、毒其他外因ニヨル死	一〇	三	一三	三〇・五二	二七・六一	三三・二二	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
一二、不明ノ診断及不詳原因	一八	一〇	二八	六五・七二	五一・四一	五三・三三	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)
計	二二七	二〇九	四二六	一・〇〇〇・〇〇	一・〇〇〇・〇〇	一・〇〇〇・〇〇	(自大正四年至大正十三年)	(自大正三年至大正十二年)	(自大正三年至大正十二年)

以上ノ表ニヨリ見ルニ消化器ノ疾患第一位ニシテ全數ノ二割二分強次ハ傳染性病及全身病ニシテ一割八分強ヲ占ム以下神經系ノ疾患、呼吸器ノ疾患等ノ順位ニシテ妊娠及産ニ因スル疾患、皮膚及運動器疾患ハ稀ナリコレヲ縣及全國ト比スルニ左ノ如シ

死因	別	本村(自大正四年至大正十三年)	本縣(大正十三年)	全國(大正十三年)
一、傳染性病及全身病	別	本村(自大正四年至大正十三年) 總死亡千ニ對スル比	本縣(大正十三年) 同上	全國(大正十三年) 同上
腸チフス	別	二・三五	六・二〇	一一・二〇
麻疹	別	四・七〇	二・一〇	九・六〇
百日咳	別	二・三五	九・七〇	八・二〇
流行性感冒	別	二・三五	二・九〇	二・八〇
赤痢	別	三〇・五二	二・六〇	五・二〇
赤痢	別	二・三五	一・二〇	二・五〇

更ニ死亡原因ヲ中分類ニヨリ記載シコレヲ本縣及全國ト比スルニ左ノ如シ

消化器ノ疾患	本村	本縣	全國
傳染性病及全身病	第一位	第四位	第二位
神經系ノ疾患	第二位	第一位	第一位
呼吸器ノ疾患	第三位	第二位	第四位
不明ノ診断及不詳原因	第四位	第三位	第三位
畸形及幼年ニ固有ナル疾患	第五位	第七位	第七位
泌尿及生殖器疾患	第六位	第五位	第五位
血行器ノ疾患	第七位	第八位	第八位
老年(老衰)	第八位	第九位	第九位
自殺中毒其他外因ニヨル死	第九位	第六位	第六位
皮膚及運動器疾患	第一〇位	第一〇位	第一〇位
妊娠及産ニ因スル疾患	第一一位	第一一位	第一一位
死因	第一二位	第一二位	第一二位

肺核性結核	三五・二一	四四・六〇	六三・三〇
結核性結核	二・三五	三・〇〇	四・二〇
腸他ノ臓器ノ結核	四・七〇	一三・七〇	一八・九〇
癩	二一・一二	三・七〇	四・六〇
微毒	一一・七四	六・一〇	五・七〇
病以外ノ惡性新生物	四四・六〇	三七・五〇	三二・〇〇
脚	二・三五	〇・九〇	〇・九〇
二 神經系ノ疾	一四・〇八	一七・九〇	一四・六〇
腦出血及腦軟化	七七・四六	六二・〇〇	五四・六〇
腦他ノ神經系ノ疾	八二・一七	九八・一〇	八一・八〇
三 血行器ノ疾	一四・〇八	一四・〇八	一四・〇八
心臟ノ器質的ノ疾	一四・〇八	三七・二〇	三一・三〇
四 呼吸器ノ疾	一六・四三	一六・二〇	一四・六〇
急性氣管支炎	一四・〇八	一七・一〇	一三・九〇
慢性氣管支炎	一一・二六	八四・九〇	九八・三〇
肺炎及氣管支肺炎	一四・〇八	一〇・〇〇	一一・二〇
五 消化器ノ疾	六三・三八	二五・九〇	二〇・九〇
胃及腸	二八・一七	一〇・五二	二〇・九〇
下痢及腸炎			

十二 精神病	二・三五		
蟲核垂炎及腸骨高蜂巢織炎	四・七〇		
爾他ノ消化器ノ疾	一〇・三二		
六 泌尿器及生殖器疾	二一・二二	一三・〇〇	一六・五〇
腎臟炎及ノライト氏病	三五・二一	五三・〇〇	四九・六〇
七 産婦及産熱	二・三五	二・七〇	二・〇〇
八 皮膚及運動器ノ疾	九・三九		
九 畸形及先天性弱質	二八・一七	七・一〇	一一・三〇
畸形及先天性弱質	三〇・五二	四・〇〇	七・八〇
一〇 老幼	三〇・五二		
老	三〇・五二	七四・二〇	五九・〇〇
一 外因ニ依ル	一六・四二	九・四〇	九・〇〇
自	一四・〇八	一五・九〇	二〇・八〇
爾他ノ外因ニ依ル	六五・七三	三二・七〇	三四・五〇
不明ノ診斷及不詳原因			
不明ノ診斷及不詳原因			

以上死亡原因中比較的多數ヲ占ムルモノ又注意スベキモノニツイテ觀察スルニ
 一 肺炎及氣管支肺炎

本村十ヶ年死亡中最モ多キハ本病ノ四八名(男二九名女一九名)ニシテ全病中ノ最高位ナリ
男女ヲ比スルニ男ニ多ク其ノ六割ハ五歳以下ノ小兒ナリ、總死亡千ニ對シ一一二・六七コレヲ本縣
ノ八四・九〇全國ノ九八・三〇ニ比スレバ著シク高位ヲ示ス

二 爾他ノ消化器ノ疾患

本村ニテハ前記ノ如ク大分類ニハ消化器病第一ニシテコノ中胃ノ疾患、下痢腸炎、十二指腸蟲病、
腹膜炎、虫様突起炎ヲ除キ爾他ノ消化器病ニテ死亡四四名(男二〇名女二四名)總死亡千ニ對シ一〇
三・二九ニシテ總死亡ノ一割餘ヲ占ム

三 腦出血及腦軟化

死亡三五名(男二三名女二名)總死亡千ニ對シ八二・一七ニシテ本縣ノ九八・一〇全國ノ八一・八〇
ニ比スレバ本縣ノ死亡ヨリ低ク全國ヨリ少シ高シ

四 腦膜炎

死亡三三名(男一六名女一七名)總死亡千ニ對シ七七・四六ニシテ本縣ノ六二・〇〇全國ノ五四・六〇
ニ比スレバ何レヨリモ著シク高率ヲ示ス

五 胃ノ疾患

死亡者二七名(男一三名女一四名)總死亡千ニ對シ六三・三八ニシテ本縣ノ二五・九〇全國ノ二〇・九

〇ニ比シ何レヨリモ著シク多ク本縣及全國ノ約三倍ノ高率ヲ示ス

六 癌

死亡者一九名(男一一名女八名)總死亡千ニ對シ四四・六〇ニシテ本縣ノ三七・五〇全國ノ三二・〇〇
ニ比シ何レヨリモ高率ヲ示ス

七 腎臟炎及ブライト氏病

死亡者一五名(男六名女九名)總死亡千ニ對シ三五・二二ニシテ本縣ノ五三・〇〇全國ノ四九・六〇ニ
比シ低率ナリ

八 肺結核、腸結核、結核性腦膜炎

結核死亡者一八名(男一二名女六名)ニシテ總死亡千ニ對シ四二・二六ナリ其内肺結核ハ一五名(男一
一名女四名)總死亡千ニ對シ三五・二二ニシテ本縣ノ四四・六〇全國ノ六三・三〇ニ比シ著シク低率ニシ
テ良好ノ成績ヲ示ス

今ソノ年齢ニツイテ見ルニ左ノ如シ

年 齡	肺 結 核		其 他 結 核	
	男	女	男	女
一〇歳—一五歳	一	—	—	—
一五歳—二〇歳	三	二	—	—
計	四	二	—	—

二〇歳—二五歳	四	一	五							
二五歳—三〇歳										
三〇歳—三五歳										
三五歳—四〇歳										
四〇歳—四五歳										
四五歳—五〇歳										
五〇歳—五五歳										
五五歳—六〇歳										
六〇歳—六五歳										
計	二	四	一五	一	二	三				

即チ三五歳以上六名二五歳未満一二名ナリ肺結核ハ一五歳—二五歳ノモノ一〇名ニシテ全數ノ三分ノ二ヲ占メ年齢ノ上ヨリ見テ青年期ノモノニ多シ

九 幼兒ニ固有ナル疾患

死亡者一三名(男六名女七名)總死亡千ニ對シ三〇・五二ニシテ本縣ノ四・〇〇〇全國ノ七・八〇ニ比シ著シク高率ニシテ成績不良ヲ示ス

一〇 老 衰

死亡者一三名(男四名女九名)總死亡千ニ對シ三〇・五二ニシテ本縣ノ七四・二〇全國ノ五九・〇〇ニ比シ何レヨリモ著シク低シ

一一 流行性感胃

死亡者一三名(男四名女九名)總死亡千ニ對シ三〇・五二ニシテ本縣ノ二・六〇全國ノ五・二〇ニ比シ著シク高率ニシテ本縣ノ一五倍全國ノ六倍ヲ示ス

一二 畸形及先天性弱質

死亡者一二名(男二名女一〇名)總死亡千ニ對シ二八・一七ニシテ本縣ノ七・一〇全國ノ一二・三〇ニ比シ高率ヲ示ス

一三 下痢及腸炎

死亡者一二名(男七名女五名)總死亡千ニ對シ二八・一七ニシテ本縣ノ一〇・五二〇全國ノ一二・〇・九〇ニ比シ著シク低率ナリ

五 年齢別死亡

本村前記十ヶ年死亡者ヲ年齢五歲別階段(五歲以下ハ一年階段)トシテ總死亡千ニ對スル比ヲ見ルニ左ノ如シ

年 齡	死 亡 者		總死亡千ニ對スル比	同	同
	男	女			
〇歳—一歳	五四	四六	一〇〇	二三四・七四	本縣(自大正四年至大正十三年)
一歳—二歳	四	一〇	一四	三二・八六	全國(自大正四年至大正十三年)
					本縣(自大正四年至大正十三年)
					全國(自大正四年至大正十三年)
					本縣(自大正四年至大正十三年)
					全國(自大正四年至大正十三年)

二歳—三歳	八	一〇	一八	四二・二四	三三・九二	三三・三〇
三歳—四歳	九	五	一四	三二・六五	二〇・〇〇	二〇・八〇
四歳—五歳	五	六	一一	二五・八一	一三・五三	一三・四〇
計	八〇	七七	一五七	三六八・三〇	三八三・六四	三八〇・五〇
五歳—一〇歳	五	八	一三	三〇・五一	一六・九五	二九・四〇
一〇歳—一五歳	三	七	一〇	二三・四七	一六・四三	二〇・八〇
一五歳—二〇歳	六	八	一四	三二・八五	三一・九六	四一・九〇
二〇歳—二五歳	五	九	一四	三二・八五	三六・二〇	四二・九〇
二五歳—三〇歳	九	七	一六	三七・五五	二九・一五	三四・〇〇
三〇歳—三五歳	六	三	九	二二・二三	二五・五五	二九・六〇
三五歳—四〇歳	四	六	一〇	二三・四七	二四・六六	二九・二〇
四〇歳—四五歳	二	五	七	一六・四二	二四・七〇	二九・五〇
四五歳—五〇歳	三	四	七	一六・四二	二四・六〇	二八・八〇
五〇歳—五五歳	五	七	一二	二八・三〇	二九・一二	三二・五〇
五五歳—六〇歳	四	五	九	二二・二二	三八・三八	三八・八〇
六〇歳—六五歳	一八	六	二四	五六・三四	五三・〇〇	四八・五〇
六五歳—七〇歳	一八	六	二四	八六・八八	六六・三二	五九・四〇
七〇歳—七五歳	一六	八	二四	五六・三四	一八九・三四	六〇・六〇
七五歳—八〇歳	一九	九	二八	六五・七一	本縣(七五歳以上)	四八・三〇
八〇歳—八五歳	九	一一	二〇	四六・九四	階級別ナキタメ	二八・九〇
八五歳—九〇歳	四	七	一一	二五・八一	七〇歳—七五歳ニ合算ス	一一・六〇
九〇歳—九五歳	一	二	三	七・〇五		三・二〇
九五歳—以上	一三七	一三二	二六九	二・三四		〇・六〇
計	一三七	一三二	二六九	六三一・七〇	六一六・三六	六一九・五〇

以上ヲ通覽スルニ死亡數ノ最モ多キ年齡階級ハ〇歳—一歳ニシテ總死亡千ニ對シ二三・四・七四ヲ示ス他ノ年齡階級ト格段ノ相違アリ而シテ本縣ノ二六八・三九全國ノ二四九・七〇ニ比シ低率ナリ五歳以上四〇歳未満ニ於テハ本村ノ死亡千分比二〇・一・九三ニ對シ本縣ノ一九〇・九〇全國ノ二二七・八〇ニ比シ本縣ヨリ多ク全國ヨリ稍々低率ニシテ四〇歳ニアリテハ本村ノ四二九・七七ニシテ本縣ノ四二五・四六全國ノ三九一・七〇ニ比スルニ何レヨリモ高率ナリ殊ニ七五歳以上ニ於テ本村ハ全國ニ比シ各階段共ニ高率ナレハ本村ニハ長命ノ者多キニヨルモノト認ム

六 乳兒及小兒死亡原因等 (第十三表参照)

本村十ヶ年間 (自大正四年至大正十三年) 死亡總數四二六名中五歳未満ノ死亡者八一五七名ニシテ總死亡者百ニ對シ三六・八五即チ三分ノ一ノ多數ヲ占メ本村保健衛生上最モ注意ヲ要スベキ事項ノ一ナリ今是等幼兒ノ死亡ヲ全國及本縣ト比較スルニ左ノ如シ

年齡	死亡實數		總死亡千ニ對スル比	同	上	同	上
	男	女					
〇歳—一歳	五四	四六	一〇〇	二三・四・七四	二六八・三九	二四九・七〇	二四九・七〇
一歳—二歳	四	一〇	一四	三二・八六	四七・八〇	六三・三〇	六三・三〇
二歳—三歳	八	一〇	一八	四二・二四	三三・九二	三三・三〇	三三・三〇
三歳—四歳	九	五	一四	三二・六五	二〇・〇〇	二〇・八〇	二〇・八〇
四歳—五歳	五	六	一一	二五・八一	一三・五三	一三・四〇	一三・四〇

計 八〇 七七 一五七 三六八・三〇 三八三・六四 四四 三八〇・五〇

即チ本村五歳未満幼兒ノ總死亡ニ對スル千分比ハ本縣及全國ヨリ稍低率ナリ〇歳—一歳及一歳—二歳未満ハ何レヨリ低率ナルモ二歳—三歳乃至四歳—五歳未満ニ於テハ本縣及全國ニ比シ多シ更ニ本村五歳未満幼兒死亡原因病類別(大分類)ヲ見ルニ

病類別	年 齡					計
	〇—一歳	一歳—二歳	二歳—三歳	三歳—四歳	四歳—五歳	
傳染性病及全身病	〇	一	一	二	二	一五
神經系ノ疾患	一〇	二	七	四	三	二六
血行器ノ疾患	一	一	一	一	一	二
呼吸器ノ疾患	二七	七	二	一	二	三九
消化器ノ疾患	一〇	七	二	一	三	二九
泌尿及生殖器ノ疾患	一	一	一	一	一	二
妊 娠 及 産	一	一	一	一	一	二
皮膚及運動器ノ疾患	二	一	一	一	一	二
畸形及幼年ニ固有スル疾患	二五	一	一	一	一	二五
老 年	一	一	一	一	一	一
自殺中毒其他外因ニ依ル死	一	一	一	一	一	一
不明ノ診斷及原因不詳	一五	一	一	一	一	一六
計	一〇〇	一四	一八	一四	一一	一五七

最モ多キハ呼吸器ノ疾患ニシテ三九名ヲ算ス(肺炎及氣管支肺炎ノ三〇名最モ多シ)次デ消化器ノ疾

患ノ二九名(爾他ノ消化器ノ疾患二二名腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク)七名下痢及腸炎七名胃ノ疾患三名)神經系ノ疾患二六名(腦膜炎二五名爾他ノ神經系疾患一名)畸形及幼年ニ固有スル疾患二五名(畸形及先天性弱質一二名幼兒ニ固有スル疾患一三名)不明ノ診斷一六名傳染性病及全身病一五名(脚氣四名微毒三名流行性感胃三名麻疹二名赤痢一名百日咳一名爾他ノ臟器ノ結核一名)血行器ノ疾患二名泌尿及生殖器ノ疾患二名皮膚及運動器ノ疾患二名外因ニ依ル死一名ノ順ニシテ妊娠及産、老年、原因不詳ニ因スル疾患ナシ

次ニ本村十ケ年間一歳未満死亡ニツイテ調査スルニ一歳未満死亡者ハ一〇〇名(男五四名女四六名)ニシテ生産百ニツキ一二・四四ナリコレヲ本縣十ケ年(自大正四年至大正十三年)平均一八・八〇全國十ケ年(自大正四年至大正五年)平均一六・八〇ニ比スルニ何レヨリモ低率ナリ

次ニ一歳未満乳兒死亡ノ月齡別ヲ見ルニ左ノ如シ

月 齡	實 數		一ケ年未満乳兒總死亡ニ對スル百分 比
	男	女	
一月—未滿	七	六	一三・〇〇
一月—二月	八	二	一〇・〇〇
二月—三月	五	五	一〇・〇〇
三月—四月	三	四	七・〇〇
四月—五月	三	五	八・〇〇
計	三三	二一	一〇〇

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
五	一	六	二	六	三	五	四	五四
三	一	七	二	一	四	六	六	四六
八	二	三	四	七	七	一	一	一〇〇
八〇〇	二〇〇	一三〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一〇〇〇〇

コレニヨリ見レバ生後一ヶ月以内ニ死亡スルモノハ一年未滿死亡總數一割三分ニ當ル生後三ヶ月迄ニ死亡スルモノハ全數ノ三分ノ一ナリ

一歳未滿乳兒死亡ト期節ノ關係ヲ見ルニ左ノ如シ

乳兒死亡ノ月	死亡實數	乳兒死亡ノ月	死亡實數
一月	一三	七月	二
二月	一二	八月	一三
三月	八	九月	四
四月	七	十月	七
五月	八	十一月	七
六月	八	十二月	一

即チ一月ノ一三名八月ノ一三名二月ノ二名十二月ノ一名三月、五月、六月ノ各八名四月一〇月一二月ノ各七名九月ノ四名七月ノ二名ノ順ニシテ寒冷及炎暑ノ候ニ死亡スルモノ多シ

更ニ本村一歳未滿乳兒死亡原因ヲ其多數ノモノヨリ配列スレバ左ノ如シ

死亡原因別 (中分類)	實數	總死亡ニ對スル百分比	死亡原因別 (中分類)	實數	總死亡ニ對スル百分比
肺炎及氣管支肺炎	二〇	二〇、〇〇	微毒	三	三、〇〇
不明ノ診斷及不詳ノ原因	一五	一五、〇〇	麻疹	二	二、〇〇
幼兒ニ固有ナル疾患	一三	一三、〇〇	爾他ノ呼吸器ノ疾患	二	二、〇〇
畸形及先天性弱質	一二	一二、〇〇	胃ノ疾	二	二、〇〇
膈膜炎	九	九、〇〇	爾他ノ消化器疾患	二	二、〇〇
急性氣管支炎	五	五、〇〇	腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク)	二	二、〇〇
脚氣	四	四、〇〇	皮膚及運動器疾患	二	二、〇〇
下痢及腸炎	四	四、〇〇	流行性感胃	一	一、〇〇
爾他神經系ノ疾患	一	一、〇〇	爾他ノ血行器ノ疾患	一	一、〇〇
計			計	一〇〇	

即チ肺炎及氣管支肺炎ニヨリ死亡スルモノ最モ多ク二割次ハ不明ノ診斷及不詳ノ原因一割五分幼兒ニ固有ナル疾患一割三分畸形及先天性弱質一割二分膈膜炎、急性氣管支炎、脚氣、下痢及腸炎、微毒麻疹ノ順序ニシテ其ノ他ハ割合二分以下ナリ

今前記死亡原因ト死亡月トノ關係ヲ見ルニ左表ノ如シ

月別	死亡原因及數	計
一月	膈膜炎 二 幼兒ニ固有ナル疾患 二 急性氣管支炎 一 下痢及腸炎 一 肺炎及氣管支肺炎 三 爾他ノ消化器疾患 一	一三

二月	腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク) 一 麻疹 一 幼兒ニ固有ナル疾患 二 不明ノ診断 二	畸形及先天性弱質 二	一〇
三月	肺炎及氣管支肺炎 二 腹膜炎(産ニ因スルモノヲ除ク) 一 幼兒ニ固有ナル疾患 二 不明ノ診断 三 畸形及先天性弱質 一	皮膚及運動器疾患 一	一〇
四月	爾他ノ神経系ノ疾患 一 急性氣管支炎 一 幼兒ニ固有ナル疾患 二 畸形及先天性弱質 一	肺炎及氣管支肺炎 二	七
五月	急性氣管支炎 一 肺炎及氣管支肺炎 二 畸形及先天性弱質 二 不明ノ診断 三		八
六月	麻疹 一 微毒 一 肺炎及氣管支肺炎 一 下痢及腸炎 一 畸形及先天性弱質 一	急性氣管支炎 一	八
七月	皮膚及運動器疾患 一 肺形及先天性弱質 一		二
八月	脚氣 四 爾他ノ血行器ノ疾患 一 急性氣管支炎 一 肺炎及氣管支肺炎 一 胃ノ疾患 一 爾他ノ消化器疾患 一 幼兒ニ固有ナル疾患 二 不明ノ診断 二		一三
九月	腦膜炎 一 胃ノ疾患 一 畸形及先天性弱質 一 不明ノ診断 一		四
十月	肺炎及氣管支肺炎 二 爾他ノ呼吸器疾患 二 下痢及腸炎 一 畸形及先天性弱質 一 不明ノ診断 一		七
十一月	麻疹 一 微毒 一 腦膜炎 二 肺炎及氣管支肺炎 二 畸形及先天性弱質 一		七

十二月	微毒 一 腦膜炎 一 肺炎及氣管支肺炎 一 下痢及腸炎 一 畸形及先天性弱質 一 幼兒ニ固有ナル疾患 三 不明ノ診断 三		一一
-----	--	--	----

以上ノ表ニヨルニ肺炎及氣管支肺炎ハ七月九月ヲ省キ二月四名一月三名三月、四月、五月、十月、十一月各二名六月、八月、十二月各一名アリ肺炎及氣管支肺炎ノ一月二月ニ死亡多キハ抵抗力弱キモノカ嚴寒ノタメ悪影響ヲウケタルモノト認メラル、モ其ノ他特ニ季節ト密接ノ關係ヲ見出サス

七 乳兒及小兒死亡ト生活程度

前記十ヶ年間乳兒死亡一名以上ヲ出シタル家族七九戸アリ

乳兒死亡一名ヲ出シタル家	六二戸
同 二名同	一三戸
同 三名同	四戸
計	七九戸

乳兒死亡ヲ多ク出シタル家少ナク、三名ノモノ四戸ニ過ギス今コノ七九戸ニツキ其生活程度ヲ見ルニ左表ノ如クニシテ乳兒死亡アル家族ハ生活程度普通ノモノ多キヲ占ム
死亡二名以上ヲ出シタル家ノ生活程度ハ何レモ中以下ナリ

(茲ニ生活程度ヲ定メタル標準ハ納税額ノミニ據ラス戸別訪問ノ際調査員ノ實際ニ觀察シタル所ト平常ノ生活状態ヲ知レル役場員區長等ノ認ムル所トヲ參酌シテ決定セシモノナリ)

乳兒死亡數	戸數	生活程度		
		上	中	下
乳兒死亡一名ヲ出シタル家	六二	八	三二	二二
同 二名同	一三	一	七	六
同 三名同	四	一	三	一
計	七九	八	四二	二九

乳兒死亡二名以上ヲ出シタル家ノ家屋換氣採光ヲ見ルニ左ノ如シ

乳兒死亡數	換氣			採光		
	良	中	不良	良	中	不良
乳兒死亡二名ヲ出シタル家	四	五	四	四	五	四
同 三名同	一	三	一	一	二	二
計	四	八	五	四	七	六

小兒死亡ニツイテモ亦生活程度ノ中以下ノモノニ多ク全樣傾向ヲ有ス要スルニ生活豊カナラザレバ住居ニ於テモ非衛生的ナルモノ多ク又生母ノ過勞營養不良ハ免レガタシ從テ乳兒ノ營養抵抗力等ニ影響ヲ及ボシ一方醫藥亦充分ニ給セサルノ憾アリ加フルニ衛生思想ノ幼稚ナルト相俟チテ兒童ノ保護ノ上ニ缺陷アルモノト認メラル

第四章 妊娠育兒ノ狀況

一 妊娠、分娩及育兒ニ關スル風習

妊娠中ノ風習トシテ特別ノモノヲ見ズ神社へ參詣安産ヲ祈願スルモノアリ妊娠シタル時ハ五ヶ月目ヨリ岩田帶ヲ腹部ニ纏フ妊娠ノ爲メ醫師ノ診察ヲ受ケ或ハ定時産婆ノ診斷ヲ受クルモノ稀ナリ本村ニハ醫師産婆ノ開業セルモノナク何レモ隣町村二里餘ノ遠キニ在ルヲ以テ産婦ニ特別ノ異狀アルカ又ハ難産ノ虞アルニアラサレバコレ等ヲ聘スルモノ稀ニシテ多クハ家人又ハ近隣ノ稍熟練セルモノコレニ當ル分娩ハ住家一隅ノ納戸ト稱スル採光換氣不良ノ室ニテナスガ普通ナリ分娩ハ多ク臥床ノ中ニテ仰臥或ハ布團等ヲ積ミタルモノニ寄りカ、リナス育兒ニ關スル風習トシテ特記スヘキモノナシ初生兒ニ「マクリ」ヲ服用セシムルモノアリ

生兒十一日目又ハ二十一日目ニ肥上リト稱シテ赤飯ヲ親戚近隣ニ配リ近隣者ヲ招キ産婦及生兒ノ健康ヲ祝ス

二 産前ノ狀況

普通ノ場合ハ早クヨリ休業スル事ナク臨月マテ勞働スルモノアリ但シ産前ニハ過劇ノ勞働ヲ避ケル如シ初産婦ニアリテハ實家へ歸リ分娩スルモノ多シ

三 産後ノ狀況

産後ノ攝生等一般ト異ナル所ナキモ離牀ハ比較的早シ離牀ノ狀況ヲ調査シタルニ普通二十日間位ナ

レトモ分娩後一週間乃至十日ニテ離乳スルモノ亦相當多數アリタリ

四 乳兒期ノ營養狀況 (第十四表參照)

乳兒期營養方法 本村民中一五歳未満ノ小兒ニ就キ其乳兒期ノ營養方法ヲ調査シタルニ左ノ如シ

營養方法		數	百分比
母乳	母乳	五五七	九〇、四二
母乳及實乳	母乳	一	〇、一六
實乳	實乳	一	〇、一六
計		五五九	九〇、七四
煉乳	煉乳	七	一、二四
牛乳、煉乳	牛乳、煉乳	三	、四九
牛乳	牛乳	二	、三三
牛乳、煉乳、米粉	牛乳、煉乳、米粉	一	、一六
計		一四	二、二八
人工營養	人工營養	一	、一六
米	米	一	、一六
牛乳、煉乳、米粉	牛乳、煉乳、米粉	一	、一六
計		三	、四九
混合營養	混合營養	二七	四、三九
母乳、煉乳	母乳、煉乳	五	、八一
母乳、牛乳	母乳、牛乳	三	、四九
母乳、煉乳、米粉	母乳、煉乳、米粉	二	、三三
母乳、米粉	母乳、米粉	一	、一六
母乳、煉乳、牛乳	母乳、煉乳、牛乳	一	、一六
計		三八	六、一八
不詳	不詳	五	、八一

即チ本村ニアリテハ調査兒童六一六名中人乳營養九〇・七四%混合營養六・一八%人工營養二・二八%ニ過キス良好ノ風習ト認ム

人工營養ノ一四名中多數ヲ占ムルハ煉乳ノ七名ナリ混合營養三八名中多數ヲ占ムルハ母乳ト煉乳トヲ併用セル二七名ナリ

即チ母乳以外ニテハ煉乳ヲ主トシテ牛乳ヲ用フルモノ少ナシ供給不便ノ關係ナラン

五 離乳期

前記六一六名ノ兒童中現ニ哺乳中ノモノ九一名不詳ノモノ七名ヲ除キ残り五一八名ニツキ其ノ離乳期ヲ調査セルモノヲ擧クレバ左ノ如シ(茲ニ離乳期トハ全ク乳ヲ離レタル時期ヲ云フニアラズシテ乳以外ノ食物ヲ主食トスルニ至リタル時期ヲ意味スルモノナリ)(第十五表參照)

離乳期	兒童數	百分率
一年未満	七	一、三五
一年—一年六ヶ月	九一	一七、五七
一年六ヶ月—二年	一四八	二八、五七
二年—二年六ヶ月	一四三	二七、六一
二年六ヶ月—三年	七〇	一三、五二
三年—三年六ヶ月	三三	六、三七
三年六ヶ月—四年	一三	二、五一
四年—四年六ヶ月	一一	二、一一

四年六ヶ月—五年	一	〇、一九
五年—五年六ヶ月	一	一
五年六ヶ月—六年	一	〇、一九
六年—六年六ヶ月	一	一〇〇、〇〇
計	五二八	

五四

即チ離乳期ノ最モ多キハ一年六ヶ月—二年未滿ノモノニシテ(二八・五七%)ナリコレニ次クハ二年—二年六ヶ月未滿(二七・六一%)及一年—一年六ヶ月未滿(一七・五七%)二年六ヶ月—三年(一三・五一%)ナリ多數ノ子供アルモノハ次子ノ生レル迄ニ多ク、離乳シ一人子ハ離乳期永キ傾向アリ

六 妊孕回数及不妊者ノ關係

本村住民中四十五歳以上ノ婦人二六〇名ニツキ其妊孕ノ有無ヲ調査シタルニ妊娠セルコトアル婦人二三八名(九一・五四%)一回モ妊娠シタルコトナキ者二二名(八・四六%)ニシテ不妊婦人ハ九分弱ニ過キス今一回以上妊娠セル婦人二三八名ニ就キ其妊孕回数ヲ見ルニ左ノ如シ

妊孕回数	人員	調査人員ニ對スル百分比
一回	一四	五、八八
二回	二二	九、七〇
三回	四七	一九、七五
四回	三三	一三、四四
五回	三六	一五、一三

六回	三〇	一二、六一
七回	二五	一〇、五〇
八回	一二	五、〇四
九回	八	三、三六
一〇回	七	二、九一
一一回	三	一、二六
一二回	一	〇、四二
計	二三八	一〇〇、〇〇

即チ本村ニ於ケル婦人妊孕回数ハ三回妊孕ノモノ最モ多ク(一九・七五%)次ハ五回妊孕(一五・一三%)四回(一三・四四%)六回(一二・六一%)七回(一〇・五〇%)二回(九・七〇%)一回(五・八八%)八回(五・〇四%)九回(三・三六%)ノ順ニシテ少ナキハ一二回ノ(〇・四二%)ニシテ平均一人妊孕回数ハ四・八回ナリ

死産産回数	人員
一回	二六
二回	八
三回	三
四回	一
五回	三
計	四〇

即チ本村ノ妊孕シタル事アル婦人二三八名中一回以上死産産アリタルモノ四〇名(一六・八〇%)ニ

五五

シテ約七分の一ハ死流産ヲ經タリ而モ中六名ハ一人ニテ三回以上死流産ヲ經タルモノニシテ妊婦保護
上一般ノ注意ヲ要スヘキ点ト認メラル

次ニ妊孕回数ト死流産回数トノ關係ヲ見ルニ左表ノ如クニシテ妊孕回数六回ノモノニ死流産最モ多
シ

妊孕回数	死流産回数	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二六
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四〇

次ニ前記妊娠シタル事ナキ婦人二二名及其配偶者ニツキ花柳病、婦人病等ノ既往ヲ調査シタルニ夫
ニ淋病ノ既往症アルモノ一名本人ニ子宮病已往症アルモノ一名ニ過キサレモ今回ノ如キ調査ニテハ不
充分ニシテ而モ材料小數ナレバ不妊ト花柳病ノ關係ハ明ナラズ

第五章 住民ノ體格

本村住民一、七九三名中事故、疾病等ノタメ不參セル者及検査場ニ出頭體格測定セルモ妊娠中ノモ
ノヲ除キ全部體格測定完了セルモノハ一、六八八名(男八七〇名女八一八名)ニシテ現住者ノ九四・一四
%ニ當ル

今體格測定ニ依リ得タル住民體格ノ狀況ヲ便宜上左ノ項ニ分チ記載セン

- 一、六歳未満者ノ体重、身長、胸圍
- 二、六歳以上二五歳未満者ノ体重、身長、胸圍
- 三、二五歳以上ノ者ノ体重、身長、胸圍

一 六歳未満者ノ體重、身長、胸圍 (第十六表参照)

本村在住一歳未満者ニシテ身體検査完了セルモノ男二五名女一四名計三九名、一歳以上六歳未満者
ハ男九三名女一一一名計二〇四名ニシテ一歳以下ハ各月齡別一歳以上ハ各歳別ニ示セバ左ノ如シ

月齡	男	女	計
〇	一	一	二
一	八	二	一〇
二	二	二	四
三	一	一	二
四	一	一	二
五	二	一	三
六	二	一	三